



### おやき村は山の上

小椋駿 記者(千曲市6歳)



ぼくは、ばあばのにらのおやきがだいすきです。いつも5こもたべてしまいます。おがわむらのおやきのはなしをきいて、いきたくなりました。バスにのっておやきむらにいきました。山のうえにあって、みちがくねくねして、ゆきにぶつかりそうになってあぶなかつたです。

ばあばのおやきはやわらかくてまるくてうすいけれど、おやきむらのおやきはたかさがたかくてかたかつたです。あずきがほかほかで、とてもおいしくて、あずきのおやきがだいすきになりました。こんどはばあばといっしょにいきたいです。



### たのしいおやき作り

松本帆稀 記者(佐久市1年)



さいしょは、あんこのおやきを作りました。きじをたいらにするのはかんたんでした。でもあんこをつつんでたまねぎみたいにするところはたいへんでした。つぎにのざわなです。むずかしくてぐが出ちゃったけれど、せんせいがおしてくれてじょうずにできました。つぎにうの花のおやきをつくりました。むにゅむにゅして

いてーばんむずかしかったけれど、おねえちゃんにてつだってもらってうまくつめました。ふじこ先生はやさしくて、たのしくおやきが作れました。



### 人気はのざわな、なす

新屋敷流生 記者(長野市1年)



おやきの種類は25種類あって、人気があるのはのざわなです。なつに人気があるのはなすのおやきです。

生地は12分間きかいてねって、180こぶんできます。べつのきかいで50グラムにカットします。手できじをだんだんのはして、ぐをつつんでほうろくの上で5分くらいやいて、こんどはわたしのうで20分くらいやいてできあがります。



## 先ぱい ども 記者 大活やく!

信濃毎日新聞の販売店をつくる「長野県新聞販売従業員共済厚生会」は、毎年、中高生がアメリカで取材する「学生記者海外派遣」をしています。12日に東京の米国大使館で働く3人が長野市を訪れ、この事業に参加した高校生と交流しました。そのうち、こども記者の先ぱい2人が書いた記事とメッセージをしようかいます。

## 私の思い 米大使館員に

学生記者を経験の高校生 意見交換会

中高生が米国で取材体験をする学生記者派遣事業に参加した高校生と、米国大使館員がこのほど長野市の信濃毎日新聞本社で意見交換会を開いた。同大使館経

済部のロビン・クロマー2等書記官と領事部のカメロン・ジョーンズ副領事ら3人に、高校生7人が派遣での体験談や感想を英語でスピーチ。和やかな雰囲気の中、日米関係をはじめTPP(環太平洋連携協定)や過激派組織「イスラム国」の問題などに話題は広がった。参加した生徒のうち3人の感想を紹介する。

## ステップ! 青春のページ



私は米大使館員に会った。オバマ大統領の選挙事務所を電話で支援者勧誘したことを話した。私のスピーチの直後、クロマーさんが「日本では女性議員を増やそうという試みもあるとの記事を読んだが、いつか政治活動に参加することに興味があるか」と、私に尋ねた。私は「これからの時代はもっと女性が活躍していくべきだと思う。そして私も政治に携われば良いと思う」と答えた。米国大使館の人と社会の在り方について話ができたと、私にとってとても大きな経験になった。

自分の意見をしっかりと 溝口 紗彩 松本深志高1年

私は米大使館員に会った。オバマ大統領の選挙事務所を電話で支援者勧誘したことを話した。私のスピーチの直後、クロマーさんが「日本では女性議員を増やそうという試みもあるとの記事を読んだが、いつか政治活動に参加することに興味があるか」と、私に尋ねた。私は「これからの時代はもっと女性が活躍していくべきだと思う。そして私も政治に携われば良いと思う」と答えた。米国大使館の人と社会の在り方について話ができたと、私にとってとても大きな経験になった。

### 英語は言葉 気持ちを込め

青木 文奈 伊那北高2年

私は今まで英語で話したことがなかった。でも、この機会に英語で話してみたいと思った。英語で話せば、相手も私の気持ちを伝えていると感じられる。英語で話せば、相手も私の気持ちを伝えていると感じられる。英語で話せば、相手も私の気持ちを伝えていると感じられる。

### マララさんのような志を

細田 柊登 伊那北高2年

マララさんのような志を。私はマララさんと同じように、教育の重要性を訴え続ける彼女を尊敬している。私もそんな彼女と同じ可能性を秘めているのだと気付かされ誇らしく思った。クロマーさんの言葉を励みに、世界平和に貢献するという大きな志を持って活動していきたい。

### 溝口 紗彩さん (松本深志高校1年)

オバマ大統領の選挙事務所を電話で支援者勧誘したことを話した。

私のスピーチの直後、クロマーさんが「日本では女性議員を増やそうという試みもあるとの記事を読んだが、いつか政治活動に参加することに興味があるか」と、私に尋ねた。私は「これからの時代はもっと女性が活躍していくべきだと思う。そして私も政治に携われば良いと思う」と答えた。

米国大使館の人と社会の在り方について話ができたと、私にとってとても大きな経験になった。

私はこども記者で、いろいろと貴重な体験をしました。記事を書くときに、人にわかりやすく説明するのは大変だけど、みなさんもがんばってください。

### 細田 柊登さん (伊那北高校2年)

「そんなに謙遜しないで。あなただってマララのようにできるわ」。米国大使館経済部のロビン・クロマーさんは語った。

マララさんと同じように、大きな変化はもたらせなくとも、自分も教育のために行動を起こしたいと、私がスピーチしたのを受けての発言だった。私はマララさんと同世代であり、テロの脅威に屈せずに教育の重要性を訴え続ける彼女を尊敬している。私もそんな彼女と同じ可能性を秘めているのだと気付かされ誇らしく思った。クロマーさんの言葉を励みに、世界平和に貢献するという大きな志を持って活動していきたい。

こんにちは。ぼくは6年生の時に、こども記者として戦時中の生活取材し、「発信」することの大切さを学びました。皆さんが感じたり、考えたりしたことを自分の中だけに留めておいては、もったいないと思います。記事を書くことはもちろん、家族や友達に話すことができたら、それは立派な「発信」です。そんなことも意識しながら、毎日の生活やこども記者の活動に取り組んでほしいです。ぼくも皆さんに負けないように頑張ります。